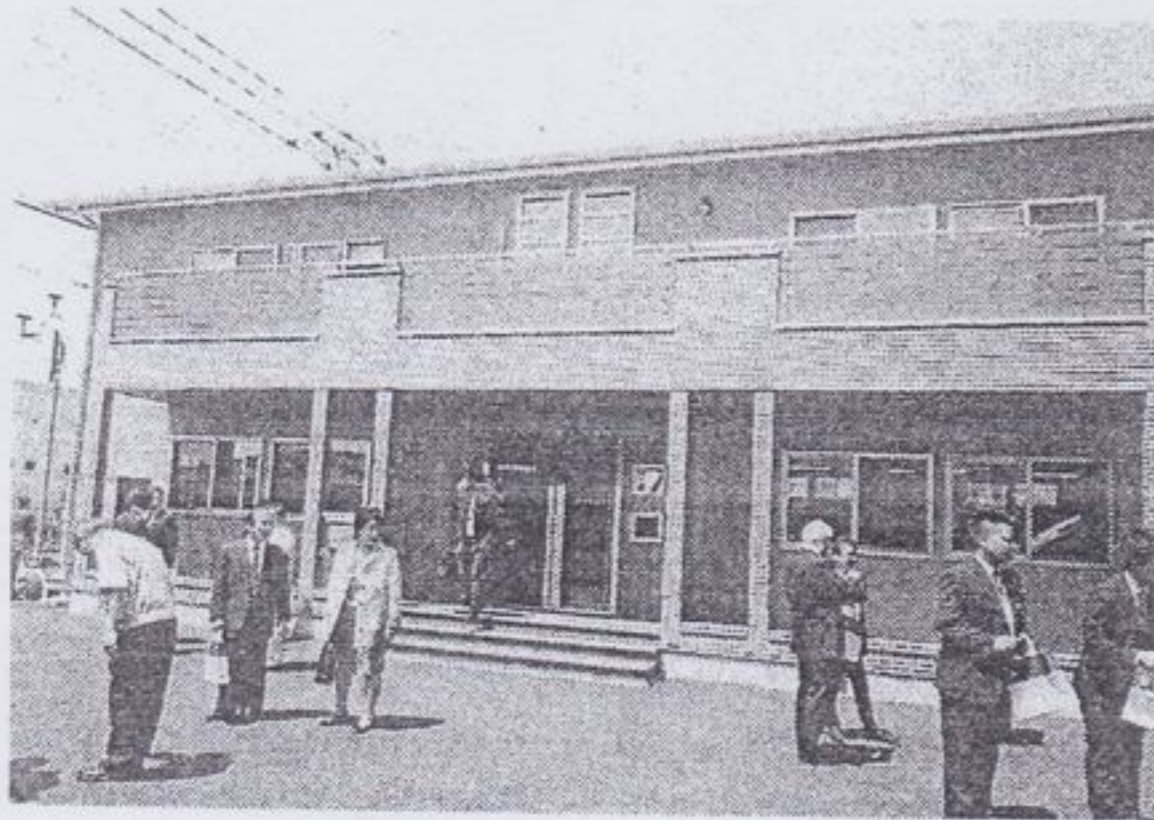


激戦区埼玉で生き抜く

新社屋完成で新たな一歩

ミズノ



新社屋を見学する顧客たち

ミズノ(埼玉県飯能市、水野美和社長)は飯能市の土地区画整理事業に伴い本社を移転し1日、新社屋披露パーティーを開いた。ジャパン建材、大建工業、吉野石膏をはじめとした仕入れ先や販売先多数が新社屋見学を兼ねて新たな門出を祝った。

同社は1950年の創業。埼玉県飯能市を拠点とし東京都下まで

元気のある小売店として有名だ。県内には有力問屋や販売店があり、激戦地域でもある。

1級建築士である水野社長は3年前に前社長の死去を受けて社長に就任した。「総勢17人の所帯だが、資

ミズノ社員一同。前列左から3人目が榎本専務、4人目が水野社長



材販売のみならず内装関連の工事なども絡ませ、地域有力店として勝ち抜きたい」と力強く前途を語った。

新社屋は社長自身の設計で、内装は木材をふんだんに使い、木の香りがする事務室だ。

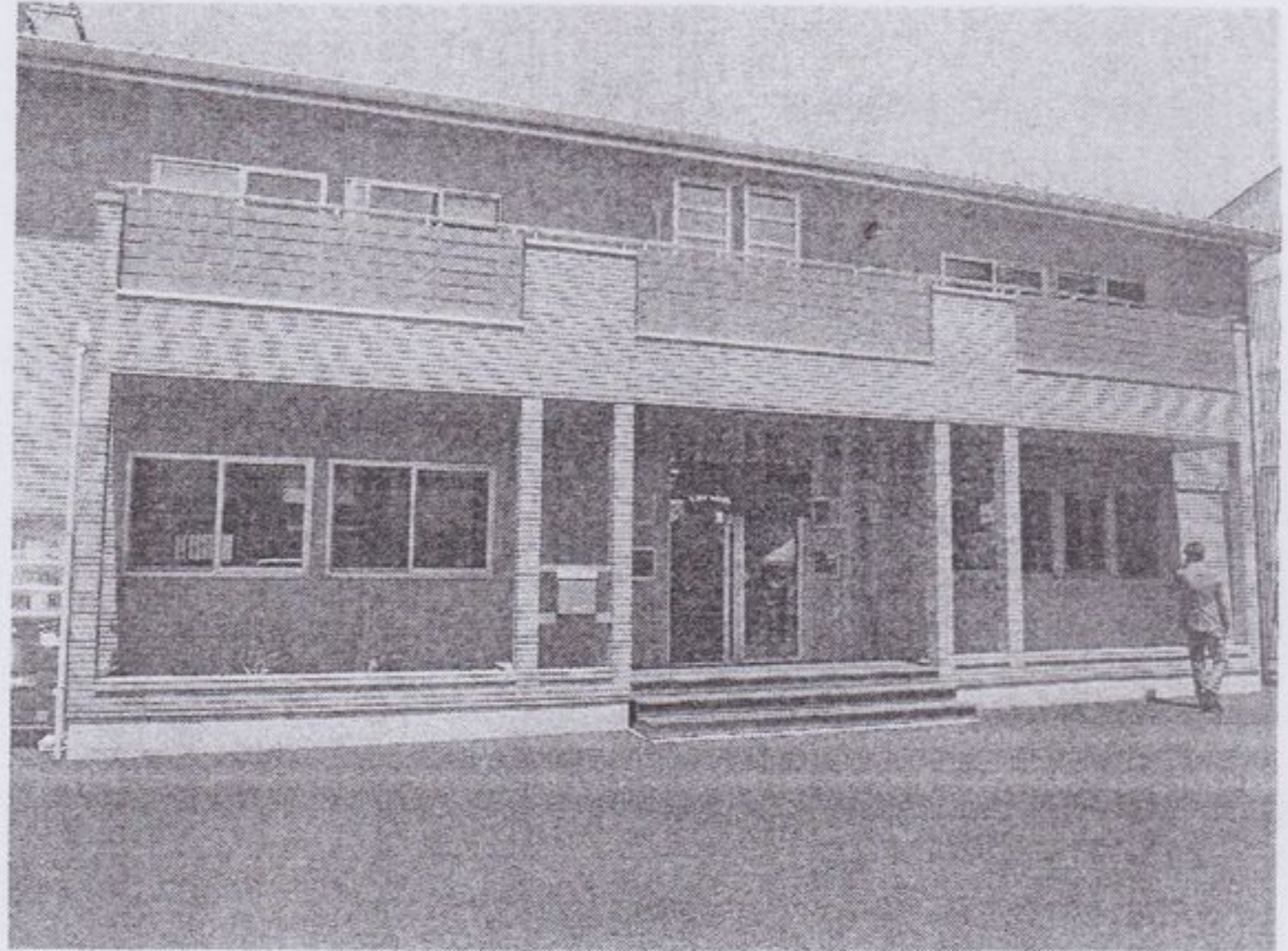
ミズノ

新光に本社移転

披露パーティー挙行

木材や住宅建材を取り扱うミズノ株式会社(水野美和社長)が土地区画整理事業に伴い、本社を新光に移転した。先月下旬に新本社敷地内で移転披露パーティーが挙行され、多くの関係者が出席し、新社屋落

成を祝った。同社は昭和25年、現在の水野社長の祖父にあたる水野太平洋氏が仲町で木材業を開業し、同35年に笠縫で株式会社水野太平洋商店を設立した。その後ミズノ株式会社となり、ジャパン建材、ハウス・デポ・ジャパンと業務提携を結び、平成23年にはYKKアドマドシヨップに加盟。地域に根差した企業として建設業発展に寄与してきた。



新光に完成した新社屋

新光に移転したのは新社屋(約230平方メートル)と倉庫(約730平方メートル)。社屋は木造2階建て、内装は西川材などをふんだんに使用し、屋根には太陽光発電設備を取り入れた。

挨拶の中で水野社長は戦後、高度成長期の時代を乗り越えてきた同社の先代、先々代の教えを紹介し、「私が商いの世界に飛び込んで3年の月日が過ぎ、本日この場に立てたことはお得意様、お集まり頂いた皆様のお陰と感謝」と感謝を述べ「建築業界は今厳し

建設業とともに邁進

い時代であると言われていたが、地元根付いた工務店、建設業とともに邁進していき、移転を機に先人の教えを胸に「新生ミズノ」として一層努力をしていく所存です。今後変わらぬ支援をお願いしたい」と締めくくった。

来賓として飯能市建設業協会吉澤文男会長、ジャパン建材株式会社・金子智昭専務取締役営業本部長、吉野石膏株式会社北関東支店・上森一郎支店長がそれぞれ祝辞を述べ、吉澤会長は「父の代より取引をさせて頂き、50年以上の付き合いとなる。時代も変わり、木材業から建築資材販売となり、販売するだけでなく、



飯能・日高・入間の情報満載 郷土の良識